

【都市計画決定理由書】

本市には、揖斐川や長良川をはじめとした18本もの一級河川が流れており、かつて輪中と呼ばれた水郷地帯であったことから、古くより恵まれた水を活かした農耕地帯として発展を遂げてきました。現在は、岐阜市と大垣市の間に位置した立地条件の良さ、国道21号が市の中心部を通っていることやJR東海道本線の穂積駅があることから交通至便の地として都市化が進み、行政人口も継続的に増加しています。都市化や人口増加に伴い、市内の河川や水路は、家庭などからの生活雑排水の増加から、水質悪化が進んでいる状況にあります。

このため本市では、まちづくりの全体像を見据えて、平成6年度に農業集落排水処理施設、平成9年度に特定環境保全公共下水道、平成10年度に合併処理浄化槽設置整備、平成13年度にはコミュニティ・プラント事業に着手し、各種汚水処理施設の整備を計画的に実施してきました。

また、国は、各種汚水処理施設整備をより合理的かつ効率的に実施してくために、「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」を平成26年1月に公表し、汚水処理施設整備の早期概成を目指すように促しています。

しかしながら、本市の汚水処理人口普及率は53.0%と他市町村と比べ汚水処理施設の普及が遅れている状況であり、健全な水環境を取り戻すためにも、早期の対策が必要となっています。

したがって、市街化区域について公共下水道事業を推進するため、公共下水道の排水区域、下水管渠や下水処理場などについて都市計画に位置付け、都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、あわせて公共用水域の保全に資することを目指すものです。

また雨水排水については、既に都市下水路が都市計画決定されていますが、今回の公共下水道の雨水排水区域に含まれるため、あわせて公共下水道の雨水排水区域に変更します。

なお、今回公共下水道として位置付ける区域は、「岐阜都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」および「木曽川及び長良川流域別下水道整備総合計画」において、単独公共下水道として整備することが位置付けられており、上位計画との整合も図られています。